

## 伊藤若冲

江戸時代中期に、京都を中心に町絵師として活躍した。若冲は、京都・錦小路にあった青物問屋の長男として生まれ、23歳で家督を継いだ。40歳で弟に家督を譲り、画業に専念する。幼い頃から生家で商う野菜や錦市場に並ぶ魚を観察したり、庭に飼っていた鶏を観察したりして、写生することにより腕を磨いていった。その後、写実と想像を巧みに織り交ぜて鮮やかな色彩で描く独特の表現で、近年広く知られるようになった。水墨画でも大胆な構図と勢いのある筆使いで多くの作品を残している。また、若冲は、当時としては珍しい「升目描き」や「点描法」など、斬新でさまざまな技法を独自に開発し、新しい表現に挑戦した。代表作に京都・相国寺に寄進した「動植綵絵」30幅(現在は宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)と「釈迦三尊像」3幅がある。